



 暑中お見舞い申し上げます！  



炎天下の中、シュプレヒコールを上げる支援者たち。

7月21日には「加藤映次さんを守る会」の総会を無事に開くことができました。たくさんの方に参加していただき、勇気と力をいただきました。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

さて、袴田事件が結審し、まもなく無罪が言い渡される、と世間では当たり前のように囁かれています。袴田さんのカウンターパンチが司法の壁に風穴を開けてくれるはず、

誰もがそう信じています。しかし袴田さんに死刑を求刑しておきながら、裏金議員を1人も逮捕しなかった検察が正義のために働いているわけではないことは明白になりました。NHKと同様に、検察も一度解体するしか再生の道はないものと確信します。正義とは一体何でしょう。立場や権力で罪が問われなくなる、軽くなる、そんな社会は間違っています。ダメなものはダメです。

国会では3月に「再審法改正を早期に実現する議員連盟」が誕生しました。現在、300人以上の議員が名を連ねています。ところが法務省は「自分たちがしっかり仕事をするので、再審法が改正されなくても問題ありません」と全国会議員にロビーイングを行っているのです。さすがは検察を管轄する法務省。冤罪なんて、日本にはありません、存在しません、と平気で言う人たちです。

ここでもう一度思い出しておきたいと思います。白虎隊も学んだという会津藩の学び舎に伝わる名言です。什の掟（じゅうのおきて）に書かれている言葉です。「ならぬことはならぬものです」ダメなものはダメです。何の説明があるのでしょうか。ダメなものはダメです。

(加藤映次さんを守る会 / 会長・伊藤三重男)

無実の叫び

いつもご支援有難うございます。前回4月18日の再審協議ではまたしても動きがなく、逃げ一辺倒の検察と、それを是正しようとしぬ裁判所の対応に苛立っていたのですが、何もしないと書いていた検察が5月になって改めて意見書を出してきたこともあり、事態が動き始めた印象を持ってました。次回7月16日の協議に向けて、弁護団からも意見書と新証拠が提出されるはずですが、この再審の行方は、それを見た裁判所の反応で決まるのではないのでしょうか。極めて重大な事実を含んでいるからです。

ただ、今回の検察の提出書面を見る限り、検察が状況を正しく認識できているとは思えません。証